

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の流行により、引き続き“3密”を意識した日々を送ることとなりました。園としては9月末を最後に感染者は出ていませんが、年明けから2月中旬まではインフルエンザが流行し、年間を通して感染症拡大防止に重点を置き、他クラスとの合流を極力避けるよう配慮し、その中で行事の内容や保護者の参加の仕方について対応を見直し、保育を進めてきました。

近年、核家族化、少子化の進行、子育て家庭の地域からの孤立、子育て不安の増加等、子どもと子育てをめぐる環境が大きく変化しており、保護者支援がなお一層重要とされています。家庭や地域、専門機関との連携を図りながら、すべての子どもたちの健やかな育ちを支えるとともに、保護者に対する適切な支援を行い、安心して利用してもらえるよう自園の保育を発信し、信頼関係を築いていくことを大切に取り組みました。

◎令和4年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

- (1) 安心して過ごせる家庭的な環境の中で一人ひとりを大切にした保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障
 - ① 乳幼児期における情緒の安定や信頼関係の形成、一人ひとりの発達に応じた適切なかかわりに留意し、子どもの姿をありのまま受けとめ、子どもが安心して自分の思いを出せるような養護、子どもの主体性を大切にした教育の安定的な提供に努めた。
 - ② 家庭との連携を大切にし、子ども達の現状をしっかりと把握して、安心して園生活を送れるようなかかわりを持ち、職員間の共通理解のもと適切な支援を行った。
 - ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手洗い・うがい・手指消毒をこまめに行い、早出居残り時間からなるべく他クラスの子どもたちが同じ空間にならないように乳児、幼児に分かれ、可能な範囲でクラスごとに過ごせるようにした。園児同士は普段と変わらない他児との交流を行えるよう、保育中の換気に十分配慮し、人が触れる場所の消毒を行い感染予防に努めた。
- (2) 乳児保育、特別支援（障がい児）保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供
 - ① 子ども達の育ちを支え、保護者の子育てを支えるため、0歳児をはじめ、途中入所を多く受け入れた。
 - ② 発達の気になる子ども、貧困世帯など社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭を含め、子育て家庭や子どもの育ちをめぐる環境の変化をふまえ柔軟に対応した。
 - ③ 保護者への緊急連絡の際、公式 LINE を活用し、速やかに一斉に知らせるようにした。
- (3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、保育所地域活動事業の実際
 - ① コロナ禍のため、地域の高齢者宅への訪問は実施しなかったが、デイサービス2か所に訪問し、園児が作ったプレゼントやメッセージを届け、屋内外に分かれ距離をとって交流し、人を思いやる優しい心を育むことができた。

- ② 地域の小学生と年長児の直接的な交流が今年も実施できていない。就学時健康診断や一日入学(実施した小学校は)で小学校に行く機会があり、中には在校生と関わりを持った子もいた。小学校から、一日の生活の流れを紹介する DVD が送られ、映像を見ながら小学校に向けての期待を持つことはできた。
- ④ 地域の敬老会に年長児が招かれていたが、コロナ禍のため実施されなかった。

(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 保護者との連携を密にし、職員会を通じて園全体で子育て及び家庭支援の強化を図った。園児のケースについて職員間で連携し、共有する機会を持った。
- ② 家庭環境に対する配慮、専門機関との連携等、保育内容の充実を図るとともに、保護者と保健師、保育士による個別面談、相談の機会を設け園全体で取り組んだ。

(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上について

- ① コロナ禍のため研修計画が大幅に変更となったが、会場で実施する研修については参加し、その他 zoom 研修、オンデマンド研修等活用し、可能な範囲で参加し、職員の自己研鑽に必要な機会の確保に努め、研修後は職員会等で内容を共有した。
- ② 子ども・子育て支援制度、改定保育所保育指針についての理解等、一人ひとりが課題を明確にすることができた。
- ③ 通園バスは使用していないが他県での事故を受け、欠席者の理由を確認することを徹底した。
- ④ 不適切保育について、そのようなことがないよう資料を使って園内研修を行い、また、幼保支援課の保育の質向上ガイドラインを活用しそれぞれの保育の振り返りを行うようにして、資質向上に努めた。

(6) 保護者の就労支援の為、早出・居残り、延長保育、土曜午後保育の実施

- ① 保護者の就労支援の為、保育の必要な家庭を対象に平日午後 7 時まで、土曜日は午後 5 時 30 分までの保育を実施した。
- ② 中心地であるため早出居残りの利用者が多く、延長保育を利用する児童も年々増加しており、夕方の時間に有資格の保育補助者を雇用し安全にお迎えを待てるよう対応した。

(7) 津波避難計画に基づいた避難訓練や防災活動への積極的な参加

- ① 様々な想定に基づいた訓練を積極的に実施した。
- ② 防災、減災対策の課題を共有しつつ、研修に参加し、マニュアルや対応についての見直しを行った。

(8) 近隣に居住する家庭の少ない園ではあるが、今後の地域の子育て支援の機能を強化すべき取り組みの展開

- ① 地域の子育て家庭とつながることの必要性を考え、コロナ禍ではあるが、感染予防をしてもらったうえで見学を受け入れ、ふれあう機会は持てなかったが、短い時間で様子を見てもらうようにした。今年は外部との接触を控えることから、バザーな

どのPTA活動も行っていないため、地域と一体となった支援には十分結びついていないが、今後も地域の児童民生員さんとも連携し、園児確保や開かれた園づくりを考えていきたい。

令和5年3月31日現在

定員	110名
職員数	32名（正職12名、契約職員11名、パート9名）
	嘱託医 2名 内訳(歯科医1名・内科医1名)
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童58名、居残り児童81名、
延長保育利用児童	延べ1328名、月平均利用111名
土曜日の午後保育	登録園児数48名、平均利用人数25名

※ 契約保育士11名中、特別支援担当保育士3名を含む。

※ パート職員9名のうち3名は0歳児担当保育士として時間を分けてあたり、他の職員は、午前の保育補助、延長保育時間対応（4時間～6時間パート）。

◆在籍児童数

令和5年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	15	16	17	21	24	17	110

◆年度別：月平均在籍児童数

年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
3歳児以上	61名	54名	49名	50名	62名
3歳児未満	45名	51名	48名	48名	45名
計	106名	105名	97名	98名	107名

◆令和4年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	101	103	105	105	106	106	109	109	111	111	111	110
入所	0	2	2	1	1	1	3	0	2	0	0	0
退所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・・・・2名
- 保健・救命救急・食育・アレルギー関係研修・・・・・・7名
- 保育士研修・・・・・・・・・・・・・21名（高知県保育士会）
- 保育業務に関する研修・・・・・・・・・・32名（zoom、オンライン、DVD研修含む）
（特別支援保育研修、家庭支援研修、安全教育研修、保育の日、防災に関する研修）
- 県主催研修・・・・・・・・・・・・・3名

◆令和4年度主要な年間行事

- 4月 入園式、顔合わせ集会（幼児組）、個別懇談、
高知市交通安全教室（3・4・5歳児）
- 5月 集会、全園児健診、劇団飛行船を観に行く（5歳児）
- 6月 検尿（4・5歳児）、歯科検診、プール開き
- 7月 七夕まつり、夏まつりごっこ、夕涼み会（5歳児）、夏の水遊び
- 8月 プールおさめ、大掃除
- 9月 通報総合避難訓練、敬老の日地域訪問（5歳児）、敬老の日行事（祖父母への手紙を出す）、集会、3歳未満児健診、お弁当の日
- 10月 運動会、木曜市の買い物学習（5歳児）、お芋ほり（4・5歳児）
お芋ほりごっこ（0・1・2・3歳児）、焼き芋パーティー
- 11月 全園児健診①②、筆山山登り（3・4・5歳児）、家族の日プレゼント渡し
就学前健康診断（5歳児）
- 12月 生活発表会、クリスマス会
- R5/1月 初詣、凧あげ、おもちつき、お正月あそび、歯科検診
オーテピアみらい科学館へ行く（5歳児）、小学校一日入学（5歳児）
- 2月 節分豆まき、3歳未満児健診、お店やごっこ、お弁当の日
- 3月 通報総合避難訓練（火災）、お別れ遠足（高知城～城西公園）職員と行く、
お弁当の日、新入園児保護者説明会、おわかれパーティー、卒園式

※新型コロナウイルス感染症のためクラス閉鎖期間あり

- その他 ◆ 毎月 誕生会、避難訓練、身体測定（0歳児）を行っています。
- ◆ 隔月 身体測定（1～5歳児）
 - ◆ 個別相談、育児相談は必要に応じて行っています。